

2022年度 大学入学共通テスト 英語リスニング(本試験) 分析

試験時間 30 分

難易度	出題分量	出題傾向
一部易化 読み上げ分量は大差がないが、スピードや内容において若干易化の部分あり。	大きな変化なし 語数・設問数ともに昨年度と類似	ほぼ変化なし 前半(第 1, 2 問)の 2 回読み、後半(第 3~6 問)の 1 回読みというパターンも昨年を踏襲された。
<p>総評 共通テスト初回の昨年より大きな変更はなかった。前半の第1, 2問が非常に答えやすく、第3問以降の1回読み部分も、先に状況説明(日本語)と設問を読ませる時間を設けてあり、心と耳の準備をすることができる。イギリスアクセントの使用も多く、後半のダイアログでは、イギリス英語話者、アジア英語話者と思われるアクセントが聞き取れる。ただし、読み上げスピードはさほど速くないため、大きな混乱はないと予想。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	設問別分析
第1問	モノローグ A:英文選択 B:イラスト選択	25 点	A: 1 文のみ読み上げで 1 文を選ぶ。簡単な単語の言い換えがわかれば正解できる。 B: 1 文のみ読み上げで、ピザや鳥のイラストを選ぶ。特にひっかけはなし。
第2問	ダイアログ イラスト選択	16 点	短い会話を聴き、イラストを選ぶ。場所や数を表す語が聞き取ることができれば問題なし。
第3問	ダイアログ 内容一致	18 点	会話を聴き、その内容に関する設問に対する答えを選ぶ。前もって設問を読むことで何を聞き取ればよいのか見当がつけられるが、ここから 1 回読みになるため、さらに集中力が必要。

第4問	モノローグ A:内容整理 B:条件整理	12点	A: 前半の設問はクリスマスの思い出を語ったモノローグを聴き、イラストを時系列に並べる。特にひっかかる表現はナシ。後半は古着選別のボランティア作業に関するモノローグ。「男女区別なくまとめて」というタイプの表現を聴き逃さないように。 B: 3つの条件に合う推薦図書を選ぶ問題。一人一人自分の進める本の特徴を話していくが、問題に表が書かれているため、それぞれの条件に○×を付けていけば自然と正解が導かれる。
第5問	モノローグ ワークショップ内 容理解 グラフ読み取り	15点	ギグワークという新しい働き方に関する説明。処理すべき情報が多いので注意。あらかじめどれだけ設問や選択肢を見ておくことができるかが勝負。対になる単語などを素早く見抜くことができると良い。
第6問	ダイアローグ 意見交換 グラフ読み取り	14点	A: 料理に関する会話を聴き、話者2人がそれぞれどう思っているか選ぶ。前もって設問を読む時間が与えられるため、1回読みでも焦らず解答できる。 B: 4人組の環境問題(サンゴ)に関する会話。問題用紙にメモを取る欄があるが、設問は「エコリズムに賛成しているのは何人か」というもので、細かい発言内容よりも、その人が賛成か反対かの大枠を読み取る必要がある。メモに必死になって、グラフに注意を向けるのを忘れると、37に解答できない。

次年度以降の受験生へのワンポイントアドバイス

昨年同様、第3問以降は1回読みのため、リスニングが苦手な受験生は第3問から急に難易度が上がったように感じる可能性あり。ただし、状況や設問を読み取る時間が設けられているため、日本語アナウンスや、無音の時間にどれだけ問題全体を把握して、選択肢を先読みしておくかが大きな助けとなる。第3～6問も一つ一つの配点はそれほど高くないため、リスニングが得意な受験生は第5問の情報処理スピードが勝負となり、苦手な受験生は第1, 2問を死守し、第3問以降の1回読み部分でどれだけ集中力を持続できるかがカギとなるだろう。受験生は一度本番同様に問題に挑戦し、のちにスクリプトと音声を活用して、復習してもらいたい。